

2012.10.02

「内閣改造は、店終いバーゲンセールだ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は10月2日です。昨日第三次野田改造内閣が発表されました。大幅な内閣の入れ替えが行われたのですが、この顔触れを見ていますと、まさに「閉店間際の民主党政権、在庫総ざらいのバーゲンセール」という印象を第一に持ちました。民主党政権は近いうちに解散しますが、いくら長くても来年7月の衆参ダブル選挙が生き延びられるリミットであり、1年もないわけです。今回が大臣になる最後のチャンスであり、今までなれなかった人に大臣の箔をつけ、前回の代表選で自分を支持してくれた方に論功行賞を行う、ということで大臣ポストを与えたという感が否めません。このことはどの報道機関も論じております。更に、ノーサイドと仰られたにもかかわらず、野田総理の対抗馬になった陣営からは誰も登用されませんでした。まさに、野田総理の側近の論功行賞で、大臣のバーゲンセールを行ったのです。

一体この内閣でなにを行いたいのか、ということが全く見えてきません。バーゲンセールで大臣を選んだのですから、大臣としての能力が未知数の方もいらっしゃるし、過去に大臣経験をなさり返り咲いた方、そもそも大臣としての資質に欠ける方もいらっしゃいます。例えば、前原氏や、田中氏はその典型であると思います。前原氏の場合は、自らまいた献金疑惑、外務大臣にも関

わらず、外国人の女性から献金を受けていたのです。また、それだけではなく、ヤクザまがいの脱税を行った方からも巨額の献金を貰い続けていたのです。政策面から言えば、「コンクリートから人へ」というスローガンの下、八ツ場ダム建設を撤回しました。しかし、地震の問題でも分かりますように、人を救う為にはコンクリートが必要であることが明らかとなり、この方針も変えざるをえなくなったのです。また、高速道路の無料化も全く意味がありませんでしたし、更には外務大臣時代に尖閣の領域に入ってきた中国漁船に海上保安庁が体当たりをされ、船長を逮捕しろと強硬路線を唱えたのは良いのですが、結局は仙石官房長官の意見に迎合し、中国人船長を帰国させました。私は政治家としての、この方の品性に大きな疑問を持っております。

そして、最近になって分かってきたのですが、私が何度も取り上げております JAL 問題は、要するに公的資金を通じて企業を助けるのですが、あまりにも JAL を助ける為に多くの資金が投入され、結局儲かっているのは JAL の再生に携わった人間だけです。本来は守らなければならなかった国民の足は犠牲になり、JAL と競っている全日空は大変な不平等な環境におかれたまま、JAL の一人勝ちで、さも再生の成功と言われていますが、このことは実にとんでもない話なのです。まさにこのスキームを考えたのは誰かといえば前原氏であり、責任の一端は前原さんにあるのです。もし、前原氏が大臣になり予算委員会が開催されましたら、我々も徹底して追求しなければなりません。

また、田中真紀子氏にしましても、かつての小泉内閣時代に、小泉総理が「総理になれたのは田中さんのおかげ」と人気取りで、田中氏を要職である外務大臣として任命してしまったのです。そして、この方を外務大臣にしてしまったが為に、小泉内閣は散々な目に遭い、特に外務省は公と私とがわからない人が任命された為に、とんでもない状態に陥ってしまいました。そして、結局は小泉氏も首を切らざるを得なくなったのです。そして、田中氏の出鱈目ぶりが明らかになりましたから、このままでは自民党では重要なポストに登用されない、ということで民主党に出ていったのは、つい先日の話です。その田中氏が晴れて今回文部科学大臣に任命されましたが、果たしてその資格があるのでしょうか。

文部科学省が今、一番頭を抱えているのはいじめ問題です。大津の事件を契機として、全国の学校にいじめを原因とした自殺が数多くあるのではないかと、という疑いが表出して参りました。これは組合だけではなく、学校側の体質に問題があるのです。校長、教頭、その他職員、組合の現実逃避に問題があります。教育においては全人格的な教育を行っているから、いじめのようなものは初めから起きないし、ゆえに存在しない、という立場を学校側は取っています。まさにこれは戦後の理想的平和主義と同じであります。戦争は現実として存在するのに、暴力反対、戦争反対と言い、目の前で起きている戦争に関与しようとしな。これが戦後の日本の振る舞いのあり方でした。これと同じことが教

育でも行われているのです。目の前で起きているいじめについて先生方が正面から向き合おうとしない。半分目をつむった形で生徒指導を行いますから、生徒が自殺に追い込まれるほどのいじめが起こっているとは気の付きようがないのです。深い深い、教育の闇の問題なのです。組合の体質だけの問題だけではなく、戦後の綺麗ごとを言ってきた価値観の表れなのです。田中さんに果たしてこの問題の総括ができるでしょうか。あの外務大臣をやっていたときの出鱈目ぶり、良い恰好をすることに関しては人一倍の才能を持っていたらっしゃる方です。自分が泥をかぶって、一番汚くなっている場所、真実をすくい出して、いこう、という姿勢とは真逆の方が田中さんなのです。今回の内閣改造で評価すべき人事は何一つない、と思います。

野田総理は特例公債法を先ず通すのだ、ということを仰っています。しかし、解散を確約しさえすれば特例公債法は通るのです。我々は参議院で問責を出していますから、事実上、議論できません。野田総理がこの10月中に解散する、ということをはっきりさせれば、我々は議論すべきことはして、内閣の所信表明を聞き、特例公債法も通すのです。しかし、やることはたくさんあるのだ、ということでなかなか解散を確約しようとしません。これは菅総理が政権末期にやっていたことと同じであります。当時は民主党の中ですら菅総理、やめなさいという意見が大きくなりましたが、「腹を切るから袴を着る」という形で解散を引き延ばそうとしました。このときは1カ月解散を引き延ばし、罵声を

浴びながら菅総理は退陣しました。同じことが野田内閣にも言えるのです。

私が野田総理に言いたいのは、誰一人あなたの言葉を信じる者はいない、ということです。国民しかり、野党もそうです。何より、民主党の議員が野田総理の言葉を信用していないのです。ですから、今後も民主党から離党者が出てくる可能性は高いと思います。そうなると、首班指名が出来なくなり、解散せざるを得なくなります。ようやくできた野田三次改造内閣ですが、もはや何の当事者能力もない、ただのバーゲン一掃セールであることが明らかでありますから、早く解散していただく、ということを国民の皆様方と国民運動として、盛り上げていきたいと思います。今日も御覧になって頂きありがとうございました。